

平成 18 年 11 月 20 日

各 位

東京都港区芝 2-14-5
青木あすなろ建設株式会社
管理本部長 小池 正晴
(問合せ先) 管理部 蒲原 康 顕
TEL 03-5419-1011

自社開発工法による学校等の耐震補強実績拡大

青木あすなろ建設は、自社開発した「制震ブレース工法」による耐震補強工事の実績を拡大しています。

この度、千葉県市川市が実施した市立小学校校舎の耐震補強についての設計・施工の技術提案で、当社の「制震ブレース工法」が選定されました。

提案の概要は昭和 56 年に建てられた鉄筋コンクリート造、地上 4 階建て、延床面積 5,828 平方メートルの小学校校舎に耐震補強用の「制震ブレース」を外付け設置するものです。(添付、外観パース図を参照願います。)

当社では、今年度 5 件の小中学校の耐震補強工事を実施しており、本工法による耐震補強実績は、これまでに学校を主として 31 件を数えております。今後、集合住宅などの民間分野へも積極的に展開していく方針です。

当社の「制震ブレース工法」は、地震による建物の振動を吸収する装置（摩擦ダンパー）を組み込んだ鋼管の筋交い（制震ブレース）を建物の外壁面またはバルコニー先端に取り付けて、地震の揺れを摩擦ダンパーで摩擦熱に変換して吸収することで、建物の耐震性能を向上させるものです。

本工法は地震時に許容される変形量が小さい鉄筋コンクリート造建物の耐震補強法として開発されたもので、建物の小さな揺れでも摩擦ダンパーが地震エネルギーを効率よく吸収します。

本工法の特徴

- ① 建物を使用しながら補強工事が出来ます。
建物の外部に外付けできるため、室内側の工事がほとんどなく、いわゆる「居ながら補強」が可能です。
- ② 廃材や騒音を少なくできる「環境にやさしい」工法です。
外壁やサッシュ、内装を撤去する必要がありません。
- ③ 制震ブレース（筋交い）の外観はスリムで建物の採光や通風に影響を与えません。

News Release /// AsunaroAoki

本工法は、既存建物の制震補強工法としては初めて(財)日本建築防災協会の「技術評価」を取得しており(建防災発第1498号)、また、(財)国土開発技術センターが主催(国土交通省後援)する第2回建設技術開発賞の奨励賞を受賞し、公的にも優秀さが認められている耐震補強工法です。

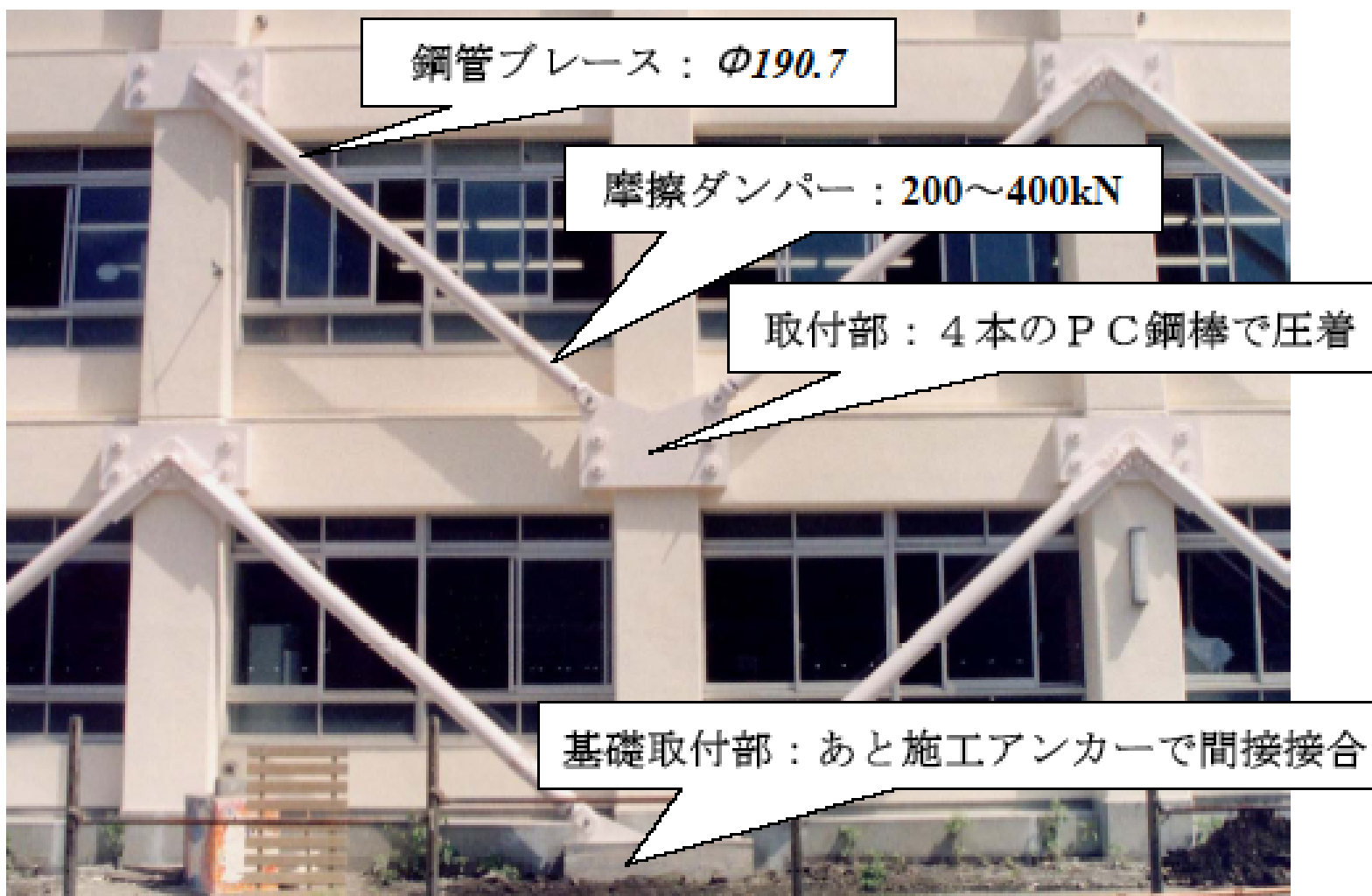
資料

- (1) 市川市立稲越小学校校舎耐震補強計画パース図
- (2) 鋼管性筋交い(制震ブレース)取り付け方法説明図
- (3) 振動吸収装置(摩擦ダンパー)の仕組み説明図

市川市立稲越小学校校舎耐震計画 パース



制震ブレースの取付け



摩擦ダンパーの構成

